長泉町わくわく塾・伊豆八十八霊場巡礼報告書

報告者　小坂治善

年月日　　２０００８年０３月２０日（木）雨のち晴のち雨（強風）
回　数　　第１１回巡礼
参加者　　３１名　（現地参加２名）

巡礼寺・順　　＊三十八番札所　禅福寺　（ぜんぷくじ）

* 本尊・釈迦如来　* 山号　興国山　* 曹洞宗　* 草創・不明
* 創立年代は不明ですが、1394(応永年間)香雲寺、開山僧、宗俊により再興し、曹洞宗・禅居院とし、後に香雲寺九世僧、宗樹が寺号を禅福寺と改めた。

＊三十九番札所　観音寺　（かんのんじ）

* 本尊・十一面観世音菩薩　* 山号　西向山　* 曹洞宗　* 草創・不明　* 本尊・十一面観世音菩薩は運慶作
* 創立時代は不明ですが、須崎の上方にあった、真言宗の寺院を、香雲寺九世、大室宗樹が 1615(元和五年)曹洞宗・観音寺と改宗した、1747（延享四年)現在地に移築された。
* 合祀されている二体の仏像、聖観音像は、桧一本造りで、平安後期の作もう一体の、薬師如来像は、平安前期の作です。

＊四十番札所　　玉泉寺　（ぎょくせんじ）

* 本尊・釈迦如来　* 山号　瑞龍山　* 曹洞宗　* 草創・1573-92(天正年間)　* 米国初代総領事館として使用　* お吉物語で有名
* 天正以前は真言宗の草庵であった、1580（天正年代)一嶺俊栄僧より曹洞宗に改宗され現在に及ぶ古刹です。
  1848（嘉永元年）　二十世翠岩眉毛和尚の代に現在の本堂が落成す。
* 嘉永 7 年 3 月、日米和親条約の締結により、下田が開港され同年 5 月付録下田条約が結ばれる。
* 米国初代総領事、タウンゼントハリス、とお吉の物語で有名な寺で当時の資料、遺品、古文書等が収蔵されたハリス

記念館がある。
＊ 延命地蔵菩薩像は秘仏で、６０年に一回のご開帳です。
前回の開帳は、2003(平成１５年）でした。

距　離　　約４Km＋９Km＋３KM＝１６Km

タイム　　下土狩５：３５－河津駅７：２０－地福院７：４０－禅福寺８：４５－白浜神社９：３０－柿崎９：５０－観音寺１０：０－須崎港広場で昼食１１：５５～１３：００―玉泉寺１３：５０－金谷旅館１４：５００～１６：４５－天城峠―三島―下土狩１８：４０

温　泉　　河内温泉（蓮台寺駅近く）＝金谷旅館千人風呂（１０００円）
その他　　法話・お茶＝玉泉寺（２０００円）

禅福寺

先月に比べすっかり明るくなった　だが風が強く小雨が降っている。出発して直ぐ田町駅西側の踏み切りで上りの始発電車に出会う。この旅を始めて、初めてのこと、吉凶どちらか？

本日の参加者は２９名＋現地参加２名の３１名。お彼岸でやや少ない。７：００天城トンネルを通過。車内は若い人（？）ばかりの為か窓ガラスが曇り外が見えない、運転席のガラスをＧさんが何度も拭く。

河津桜の原木、伊豆横道の一つ小峰堂前を通過してまもなく河津駅着。７：２０トイレ休憩。Ｔさん、Ｓさんが乗車。国道１３５号に出る。ものすごい風、そして高波が消波ブロックにあたり高い波しぶきを上げている。海が白い。車内に驚きの声があがる。地福院近くの路傍で準備体操７：４０スタート。

少し歩くと強風に雲が飛ばされたのか、青空が見えてきた。地福院前を通過し、山道を行く。山林の梢を風がものすごい音をたてている、小枝が折れて路上に散乱している、まもなく雨がやんだ。さみしい山道だが雨衣がカラフルだ。陽光が射してくる。

８：１０休憩。皆雨衣を脱ぐ。華やかな色が消えた。８：１０国道１３５号に出る。海は遠くまで白く変化している。強風の為、幾重にも連なって波が押し寄せてくる。新潟の日本海を思い出す。

８：４５禅福寺着。住職の口調が印象的だった。９：０５寺を出て直ぐ、山道沿いの小川に小屋が逆さまに落ち込んでいた。もの凄い風の力だ。

伊豆最古の白浜神社に到着９：３０。売店にあった恵比寿ダルマは手書きとの事にて目の表情が一つ一つ異なっている。また柏槙（びゃくしん）の巨木が印象的だった。青桐の自生地としても有名との事。

荒れる海

９：４５。出発してまもなく白浜海水浴場脇を通る。幾重にも白い波が押し寄せ、波しぶきが、砂が舞い、飛ぶ。カーブミラーが、道路標識が悲鳴をあげている、身体が一瞬浮き上がる。女性４人が腕を組んで歩く。気がつくと巡礼の小旗が飛ばされてなくなっていた。やっと通過。口の中がじゃりじゃりする持参のお茶で口をすすぐ。９：４５柿崎着。ここで４人がバスに乗る。強風下の歩きで体力を消耗したのか・・・。

ハリスの小径を右に見て坂道を登る。１０：０観音寺着。山門を入って直ぐ右手に赤花三極（あかばなみつまた）の花が咲いていた。本堂の大きな扉に直ぐに閉めてくださいと書かれている。普段から風の強い所の様だ。ご朱印を押してくれた、ご夫人の笑顔と、優しい応対に心が和む。息子さんは駒沢大学にお勤めとの事。

須崎港に面した小広場に１１：５５着。風が強い為、バスの中で昼食をとる。Ｓさんが途中で拾ったミカンをむいてくれた。皆で分け合って食べる。意外と美味しい。二つ目をむく。直ぐになくなる。出発前に散策すると、生垣の中に大きな石がある。御影石（江戸城の築城石）との事だが、石に穴が２つあいていた。昔、舫石（もやいいし）に使用したと看板にあった。

１３：００スタートし、市の浄化施設場内を通り、ドクターヘリポート、吉田松陰の上陸地記念碑の前を通過。松蔭の「かくすればかくなるものと知りながら　己（や）むにやまれぬ大和魂」を思い出した。

観音寺

さらに進む。戦争中に船を隠したとされる洞穴の前を過ぎると前方に寝姿山が港の上に浮かんでいる。

説明版によると、標高２００m、別名を武山万蔵山との事。石に埋め込まれたハリスのレリーフが、ハリスの小径の出口にあった。

しばらく歩くと側溝のフタに水仙の花がカラーで描かれていた。さすが水仙の名勝地だ。

１３：５０玉泉寺着。本堂に入る前に、希望者のみハリス記念館を見学（４００円)。中に入ると、アメリカ、ロシアとの交流の歴史や当時使われていた物や関連資料が様々な形で残されている。印象的だったのは、昭和５４年（１９７９年）6月２７日当寺を訪問した時の第３９代アメリカ合衆国大統領ジミー・カーターの写真。

ディアナ号の乗組員の写真の横にあったマトリョウシカ、奉行所員の書、そして吉田松陰が着たという袷の上にあった。

先生の肌のにおいを遺衣（井伊）に見る（井上剣花坊）の句。見学時間２０分あっという間だった。売店にハリスも飲んだ牛乳（森永製）とあったが、案内役のＳさんの話しによると既に当時、下田に森永の牛乳はあったとのこと。

境内の説明版によると、来日後の多忙により体調不良のハリスを見かねて、お吉さんが禁を犯して近在より和牛の乳を飲ませたとの事。その代金は９合８勺で米３俵だったという。

住職の先導で、般若心経他を唱和の後、お話をうかがう。２７代目（世）という。玉泉寺は天正年間（１５８０年代）に、真言宗から曹洞宗に改宗され現在（２７世）に至っている、それ以前は不明との事。本堂の左手奥の八畳間がベッドを置いたハリスの寝室で、皆が坐っていた本尊前の大広間（２１畳）が日本で最初のアメリカ領事館になり、１８５６年（安政３年）以後、２年10ヶ月間、２４mの旗棹に星条旗が掲揚され、様々な交渉が行われた。

本堂は１８４８年（嘉永元年　２０世の代）に建立された。１８５７年、ハリスは徳川幕府第１３代将軍　家定（篤姫の夫）に会いに江戸へ行った。江戸まで約一週間かかったと言う。

６０年に１度御開帳されるという延命地蔵が本堂左手の壁際にある、黒い漆

塗りに金色の縁取りをした箱の中に収納されているという。作り方から見ると平安時代の作品らしい。６０年は余りにも長いので、３０年に１度に御開帳されているとの事。隠されると見たくなるものだ。

本堂裏手の高台の左右に、日本最古（初？）の外人墓地（米、独、ロシア）があった。

今日（２０日）は　お彼岸の中日（ちゅうにち）ということで　関連するお話を伺う。

日本で最初の外人墓地

- お彼岸はおてんとうさま（お天道様＝太陽）が、真東から真西に沈み、昼と夜の長さが同じである。春・秋、年２回ある。
- お彼岸の行事は日本独自の文化だ。
- 中日とは、中道をあらわしている。皆同じ。平等である事をあらわす。
- お彼岸―浄土、此岸―この世。こちら側。
- 中日を挟む１週間は、人間として慎む七日間である。
- 現在飛んでる、米宇宙飛行船エンデバーは、日本語に訳すと、努力をした上にさらに努力。即ち、精進にあたる。

広辞苑より

彼岸とは、悟りの境地。生きているこの世を、此岸（しがん）とし、中間の川の流れを、煩悩とし悟りの世界（涅槃）を向かいの岸（此岸）に例える。またお彼岸とは、春分と秋分の日を中日としてその前後の七日間をいう。この間に仏を供養する。

１４：３０発　入山する時に気づかなかったが、入口右手に　住職の字で、「この世には、雑用という用は１つもない。楽な生き方には感動がない」とある。肝に銘じる。境内で住職を加え記念撮影。雨が降ってきた。今日は強風に翻弄された。疲れもしたので講師は終了を宣言。温泉に向かう。

温泉は、蓮台寺駅近くの河内（かわち）で、金谷旅館に１４：５０着。源泉かけ流しの千人風呂は大正４年の建築の総ヒノキ風呂だ。レトロ感覚あふれる。浴槽内に女性のブロンズ像が　体ある。伊東市の重岡建治氏の作品だ。経風下の歩きで疲れた心身を癒してくれた。

入浴後、恒例の反省会（？）１６：４０出発。天城―修善寺―三島を経由し下土狩駅18：４０着。風と遊んだ（遊ばれた？）一日。全員無事に感謝。合掌

参考

途中　立ち寄った通称　白浜神社は、正式名　伊古奈比咩命（いこなひめのみこと）神社は「三宅記」によれば、伊豆の島々を造った三嶋神の妃神で、この両神は初め三宅島にあって、伊豆の島々を開発し後に、白浜に移って伊豆を治めたが、さらに三嶋神は、現在の三島の地に遷祀され、白浜の社は　古宮と呼ばれたという。

さらに、伊豆の国市田京の、広瀬神社の社誌によると、三嶋神は白浜から広瀬神社に遷されさらに、三島に遷されたという。

そして、三島大社境内末社に、広瀬神社があるということであったが、所領地を大幅に縮小された現在の三嶋大社境内にはなく、楽寿園の小浜池の中にあることが判明した。両者を関連付ける行事も行われているという。

２００８．０３．２０

伊豆八十八・四十番札所

下田・玉泉寺